

入院生活の経験

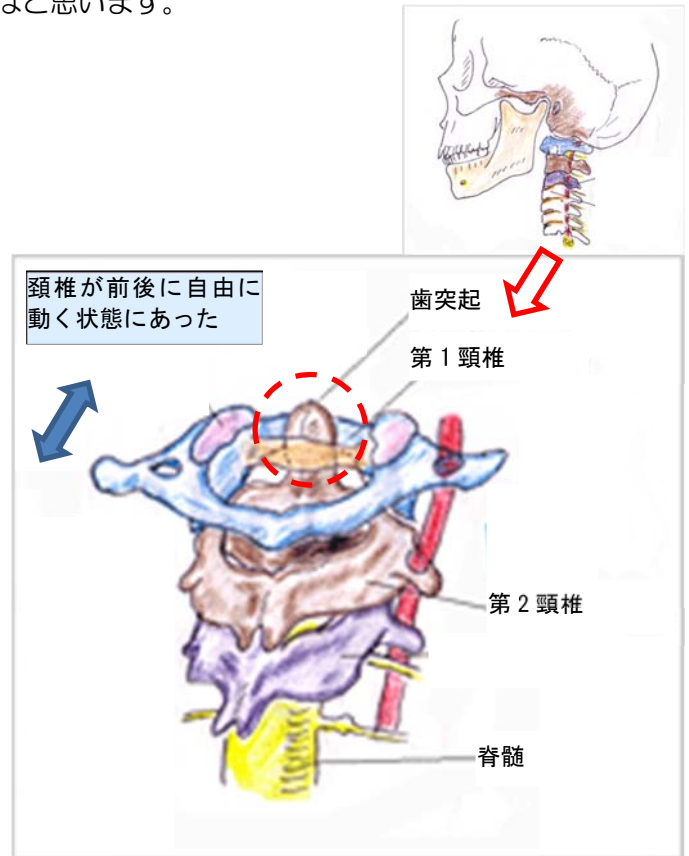
令和元年 6 月

1 / 2

穏やかな春も終わり、夏が近づいてきました。夏といえば、海や川など活発に体を動かす機会が多くなってきます。また、活動が多くなる一方で、転倒による骨折や怪我などが発生し、重症になると入院することもあるかと思えます。そこで今回は、私の過去の経験から、首の怪我による入院生活に着目して紹介することで、今後の日常生活に役立てて頂ければと思います。

脊髄の損傷

私は大学生の時、生まれながらの首の損傷が発覚し、首の手術と3ヶ月の入院をしていました。症状としては、図に記載の通り首の歯突起が生まれながらに無く、首を前後に動かすことで頸椎が脊髄を損傷する状況にあることでした。当時、遊園地のジェットコースターに乗った時、首を激しく動かしたことにより頸椎が脊髄を激しく損傷し、全身麻痺になり発覚しました。幸い私は不完全損傷だったため、麻痺は一時的でしたが、そのまま死に至る可能性も高かったみたいです。私の場合は先天性のものによる損傷でしたが、一般的にも、転倒などによって首を骨折し、不自由になる人は多くいます。



出典) <http://suzuki-s-c.com/kamiawase/>より加筆修正

入院生活の特徴

その後手術と固定器具装着のため入院することになりましたが、入院生活は不安と我慢の連続でした。以下に紹介します。

●医者によるリスクの説明

手術や固定器具の装着について、医者から説明される機会がありますが、基本的にそれによるリスクの説明が主な内容となります。私の場合は首の太い血管が近接する難しい手術のため、失敗すれば死に至る可能性があると言われました。入院中は何とか希望をもちとうと頑張りますが、リスク説明によりとにかく不安になります。

入院生活の経験

令和元年 6 月

2 / 2

●痛いことが多い

入院中は検査の脊髄注射、手術箇所
の痛み、抜糸等痛いことが多いです。

特に私の場合は、固定器具（ハロー
ベストと呼ばれる器具）を装着する必
要があったため、これが一番痛かった
です。装着方法としては、図の 4 箇所
にの金棒を骨まで挿入します。挿入の
際はドリルのようなもので行いますが、
骨に当たる際の痛みはなんとも表現し
難いきついものでした。



出典) <https://allabout.co.jp/gm/gc/452597/>

●寝たきり、かゆみは辛い

手術後、二日間体を起こすことも禁止され、寝たきりの状態でしたが、ずっと天井を眺めるしか
ないです。ストレスで口内炎が多数でき、言葉を話すことでさえ難しい状況でした。

また、固定器具を 3 ヶ月つけていたため、体を洗うことができず、毎日かゆみと戦っていました。かゆ
みが治らないのは非常に辛いです。

最後に

退院後は首の可動範囲は狭まったものの、問題なく生活できています。もし、遊園地で完全損傷した
場合、死に至っていたか、不自由な生活を余儀なくされていたらと思います。軽度の怪我ならよい
ものの、首の怪我は大変危険になります。激しい運動を行うときは特に首に注意して頂ければと思いま
す。